**アンケート・ピックアップ**

**5月26日　（株）大川印刷　代表取締役社長　大川　哲郎　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

今まではベンチャーの経営者の方々が多かったので、今回134年の歴史がある大川印刷の大川社長メッセージでは企業が持続するために必要なメッセージが印象的でした。特に、「地域企業は地域や社会に必要とされる人の集合体」というメッセージは今までの歴史と新しい経営の判断をされた大川社長だからこそのものであり、とても重要だと思いました。本質を追求すること、徹底して本物にこだわること言葉にすると簡単ですが実行はとても難しいことです。このプレッシャーだけでも持続していくだけでも大変にも関わらず、新しい取り組み（しかも地域貢献という軸もぶれずに）をされている部分が素晴らしいです。（経営学部・経営学科・1年）

就職は手段であって目的ではない、内定はスタートであってゴールではない。この言葉を今回聞くことができなかったら僕は将来就職することだけで満足して終わってしまう人間になっていたかもしれない。今回の講義はじぶんの将来今後の大学生活の選択肢を広げてくれるものであり生かしていきたいと思います。　（経営　経営システム　一年）

今までは企業が利益を求めれば社会に何かしらの影響が及ぶと思っていたが、そうではないと知った。企業の利益と社会貢献の両立は可能でありそのためには企業の構成単位である従業員一人一人の社会貢献に対する気持ちが必要だと感じた。他の人を動かすためにはまず自らが行動してほかの指針にならなければならないのでそういった人間になり社会貢献していきたい。（経営学部経営学科1年）

　今まではベンチャーの経営者の方々が多かったので、今回134年の歴史がある大川印刷の大川社長メッセージでは企業が持続するために必要なメッセージが印象的でした。特に、「地域企業は地域や社会に必要とされる人の集合体」というメッセージは今までの歴史と新しい経営の判断をされた大川社長だからこそのものであり、とても重要だと思いました。本質を追求すること、徹底して本物にこだわること言葉にすると簡単ですが実行はとても難しいことです。このプレッシャーだけでも持続していくだけでも大変にも関わらず、新しい取り組み（しかも地域貢献という軸もぶれずに）をされている部分が素晴らしいです。（経営学部・経営学科・1年）

大川印刷の工場は私の地元である戸塚にあるそうで、とても親近感がわきました。今までこのような古くからある会社のお話を聞けていなかったので新鮮味がありました。私益ばかりを考えるのではなく、公益を考える。会社のためはもちろんのことですが、社会のためになることをする。これらの大川さんの考えがとても嬉しかったです。私は社会が楽しくよりよくなるようなことをしたいと思っています。大川さんのような変化を恐れない人の下で働きたいと思いました。ま (経営　会計情報1年)

これまでこの授業では起業した方々の出演ばかりでしたが、このタイミングで、もとからある会社の経営者である大川さんの出演は大きな刺激になりました。また、私の使命は何だろう、と考える機会になりました。今、私は人に必要とされている人物だとは感じていませんが、後々はそんな人材になりたいと思いました。”先義後利”という単語も心に残りました。 (経済・経済システム1年)

企業が長く続いていくため、ビジネスを続けてためには、地域や社会に求められるようになる必要があり、そのために地域や社会のために持続可能な社会貢献をすべきだ、というのがとても印象に残りました。多くの企業は、自分たちの利益のことばかりを考えてしまい、ここまで地域や社会のことを考えてビジネスを行っているところはあまりないと思います。でも地域のことを考えていくのはとても大切だし、何より‘持続可能な’という部分が非常に重要だと思います。また、‘体験と経験の違い’というのもとても印象に残りました。大学時代にいろいろなことに挑戦するのは大事だけど、それがただの体験で終わってしまえばそれほど意味がなくなってしまうと思いました。挑戦したことが、本当に自分の経験となり、自分の力になるように本気でやらなければいけないと思いました。（教育人間　人間文化　1年）

最初のビデオの中にあったように「老舗だけど時代のニーズに合った仕事を。」という言葉に大きな感銘を受けました。薬の説明書きという他の会社が嫌がる仕事・場所にリスクを負ってまでもチャレンジするという大川印刷の経営方針は150年の歴史を持ち信頼のある大川印刷ならではでないかと思いました。「持続可能な社会貢献」は、設立30年後１万社に2.5社しか生存できないというシビアな会社経営の世界の中心で150年続ける秘訣なのではないかと思います。地域や社会から必要とされる、これが地域密着の会社が地域から信頼を得る方法だということを改めて知りました。（経済　経済システム１年）

**問２　今後のアクションにつなげていきたいこと**

「人の嫌がることに商売の肝がある」という言葉がとても印象的で、そこには他者の介入がない事業があるのではないかと思いました。普段から気にかけていきたいと思います。（経営・経営・１年）

　ミッション（使命）についてのお話を聞いて、自分の存在価値について調べてみましたが、あまり思いつきませんでした。しかしこれは就職活動をする際には必ず理解していかなければならないことだと思います。幸い私にはまだ2年半ほど時間があるので、この間に様々な経験をして、自分の存在価値を見つけていきたいです。（経済学部・経済システム・1年）

**授業スタッフの感想１**

今回のみんなの感想を読んで、今までの経営者のリーダーシップの授業で学んできた内容とはだいぶ違ったものを学ぶことができたというものが多数でした。まず、今までは起業された方がほとんどでしたが、大川氏は世襲という異なったリーダーのなり方でした。それでも、起業することにも劣らないくらい若い人が引き継ぐことは大変なのだということを実感していました。もう一つはCSR活動を主体とした、商売とは別の企業の顔のような活動について濃いお話があったことです。使う人や環境に配慮していたり、植樹などのCSR活動をしていたりなど、大川氏の経営のスタイルを学ぶことによって企業とは商売だけではないことを感じていたようでした。このように、企業経営の新しい一面を見ることはとても勉強になります。これからもこのリーダーシップの授業で学び取っていきたいです。